



GLOBAL MAPPING NewsLETTER 75

第 21 回地球地図国際運営委員会会合

永山透
ISCGM 事務局長



平成 26 年 8 月 5 日に、米国ニューヨークの国連本部において、第 21 回地球地図国際運営委員会（ISCGM）会合が開催されました。今回は新しい委員長のポール・チュン教授（シンガポール国立大学、前国連統計部長）の采配の下、各国の地理空間情報当局、国際機関、民間組織の代表等約 80 名が参加しました。

今回の会合では、従来の地球地図に加えて、各国、国際機関、民間組織における地球規模の地理空間情報の整備・提供についても発表と議論の時間を設けました。ブラジル、中国、日本、メキシコ、韓国、スペイン、アメリカ、ユーロジオグラフィックス、GEO、IHO、PAIGH、Digital Globe、ESRI、PASCO からそれぞれ発表が行われ、各々のグローバルマッピングに関連する活動を紹介しました。発表資料はホームページから公開されています（<http://www.iscgm.org/iscgm21/>）。これらの議論の中で各組織の経験の共有は有益であること、また ISCGM の新たな役割としてグローバルマッピングの作業の経験共有を主唱・促進することが確認されました。

会合においては、ISCGM の今後の作業についても議論が行われました。地球地図など地球規模の地理空間情報のアクセスを支援するため、その所在を使いたい人に教えるカタログサービスと世界主要都市の防災リスクとハザードマップを案内するウェブサイト ISCGM の事務局から提案したところ参加者から歓迎され、今後、具体化を進めることとなりました。そのほか、地球地図の着実な整備の促進や ISCGM のホームページとロゴのリニューアルについても承認されました。

ISCGM のホームページとロゴは会合後ただちにリニューアルを行い、現在は新しいデザインのもの公開されています。カタログサービスと防災リスクとハザードマップを案内するウェブサイトのプロトタイプにアクセスすることも可能です。ISCGM の変化の第一歩をご覧ください。ISCGM のホームページ（<http://www.iscgm.org/>）を是非ご覧下さい。

地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会第 4 回会合

鵜生川 太郎

国土地理院応用地理部環境地理課長補佐 / ISCGM 事務局



平成 26 年 8 月 6 日から 8 日に、米国ニューヨークの国連本部において、第 4 回地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会会合が開催されました。ISCGM からはチュン委員長、永山事務局長他が参加しました。本会合には 80 を超える国・地域、国際機関及び民間企業等から合わせて約 240 名の専門家が参加しました。

会合では、地球規模の地理空間情報管理に関する様々な議題について議論が行われました。もっとも大きな成果としては、グローバルな測地基準系（GGRF）の重要性について各国が合意し、国連総会での決議に向け、GGRF を促進するための草案を経済社会理事会へ提出することとなったことが挙げられます。また、持続可能な開発の達成には地理空間情報が重要であることが政策決定者等に広く認識されることが必要であり、専門家委員会における複数の作業部会が連携して取り組むことが提案されました。持続可能な開発のための地球地図の作成に向けては、ISCGM が引き続き実務的な役割を果たすこととされています。

グローバルな基盤地理空間データテーマの策定に向けた作業を進めていくことも合意され、既存のデータテーマのインベントリーの作成に取り組むことが合意されました。これは ISCGM で整備するデータ項目にも影響を持つものと考えられます。その他、統計情報と地理空間情報の統合や、地理空間情報に関する法的及び政策的な枠組みなど多岐にわたる課題が議論されました。欧州地域、アラブ地域において、GGIM の地域ボディが設立されたことも報告され、ISCGM としても今後これらの地域委員会との連携を強化していくことが予想されます。

次回の GGIM に関する国連専門家委員会第 5 回会合は来年の 8 月に米国ニューヨークの国連本部において開催予定です。

地球地図ニューージーランド第 2 版

グラーム・ブリック

主席測地官

ニューージーランド土地情報局



グラーム・ブリック（主席測地官）と
ジョイス・バイリー（地図技官）

位置情報は、経済全体に革新をもたらす国々が直面する最も複雑で長期的な問題に取り組む能力を証明しています。

ニューージーランド土地情報局 (LINZ) は、ニューージーランド国民がこれらの恩恵を手に入れることを保証するために働き、位置情報をとおしてニューージーランドのために作成される価値を今後 10 年で十倍に増大させることを目的としています。

この LINZ の目的達成を支援するのは、LINZ のデータを公開し、他の人々が新しい考えや企業のために用いられるよう、利用・入手を可能にする手段を講ずることです。また、これらの手段は、部分的に、データが ISCGM の地球地図プロジェクトに貢献する役割も果たしました。

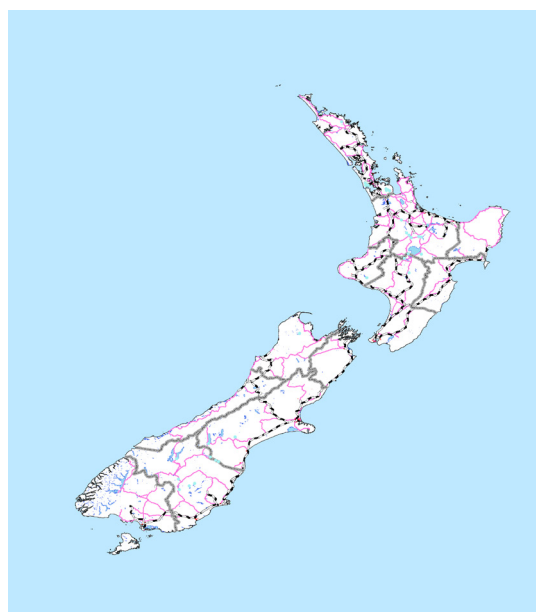
私達の 50 万分 1 のデータセットは、ISCGM によって地球地図に最適であると選ばれました。地形情報は LINZ が管理する鍵となるデータセットのひとつで、ニューージーランドの目標達成を支援する重要なものです。

LINZ は地形データセットや他のデータセットを私達のオンラインの [LINZ Data Service \(LDS\)](#) を通して自

由にダウンロードし利用できるようにするための作業を行っています。ここでは、ビジネス、政府及び経済分野にこれらのデータセットへの制限のないアクセスを提供するために、クリエイティブコモンズのオープン・ライセンスを用いています。

現在、LINZ が作成し LDS で利用可能な最も大縮尺の地形データは、縮尺 5 万分 1 の Topo50 ベクター及びラスターの成果品です。2009 年 9 月に Topo50 シリーズが初めて公開されて以来、Topo 50 の 711 図葉が更新され、多くの図葉は複数回の更新が行われています。25 万分 1 の Topo250 の更新版は公開を目前にしており、公開された後、その他 50 万分 1 等の更新も続きます。

いつ更新されるかについて、ISCGM が LINZ に尋ねる必要はありません。LDS の機能には、レイヤが更新されるたびに [by subscribing to the feed reader functionality](#) で利用者に知らせる能力があります。この方法で私達のデータが ISCGM やその他の人々に利用可能となり、非常の多くの人々が LINZ の位置情報から利便性を得ることを保証しています。

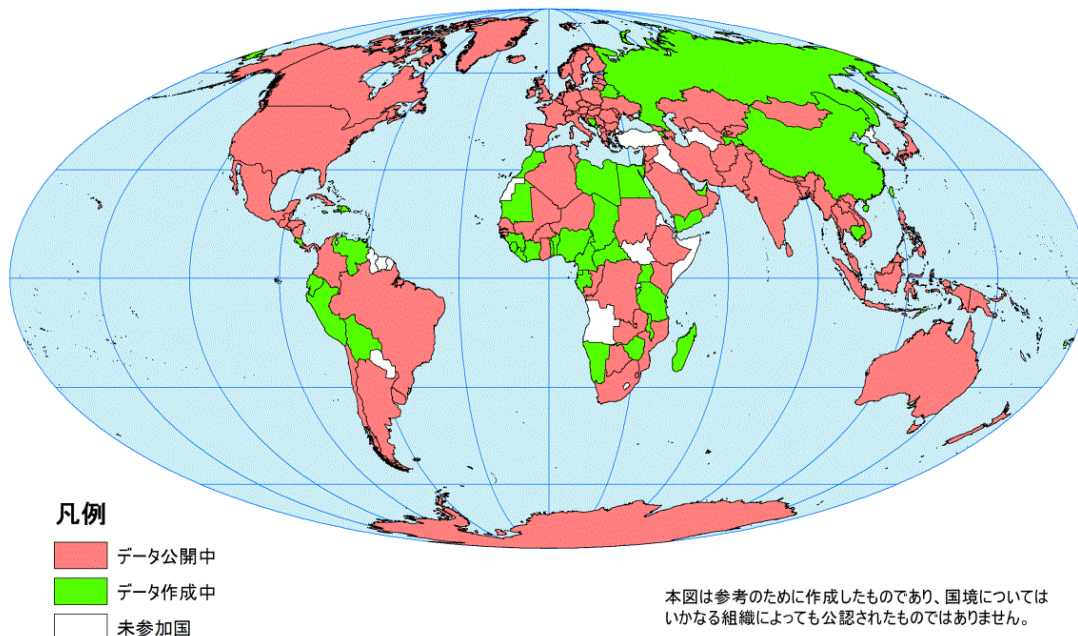


地球地図ニューージーランド第 2 版

事務局から

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

現在 167 カ国 / 16 地域が地球地図プロジェクトに参加し、110 カ国 / 8 地域（うち Ver.2 を公開しているのは 73 カ国 / 4 地域）の地球地図が公開されています。



メール配信等のお知らせ

メール配信・停止ご希望の方は、氏名・住所・メールアドレスを sec@iscgm.org までお知らせください。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2014 年

- ・ 10 月 1 日、キシナウ、モルドバ
UN-GGIM: ヨーロッパ第一回総会
- ・ 10 月 22 日～24 日、北京、中国
第 3 回地球規模の地理空間情報管理に関する
ハイレベルフォーラム (HLF-GGIM)
- ・ 11 月 10 日～12 日、バリ、インドネシア
第 3 回国連地球規模の地理空間情報管理に
関するアジア太平洋地域委員会総会
(UN-GGIM-AP)
- ・ 11 月 13 日～14 日、リーブルヴィル、ガボン
第 11 回地球観測に関する政府間会合

2015 年

- ・ 3 月 14 日～18 日、仙台、日本
第 3 回国連防災世界会議
- ・ 5 月 17 日～21 日、ソフィア、ブルガリア
国際測量者連盟ワーキングウィーク 2015
- ・ 8 月 23 日～28 日、リオデジャネイロ、ブラジル
第 27 回国際地図学会議
- ・ 8 月、ニューヨーク、米国
第 5 回地球規模の地理空間情報管理に関する国
連専門家委員会 (UNCE-GGIM)



NEWSLETTER は地球地図情報誌として、世界中の地理空間情報当局や地球地図データ利用者など 1,200 名以上もの多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。本誌の記事は、原文をそのまま掲載しております。

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-8087

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org